

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録
すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市本城町 113-1
発行人 武松 豊
編集責任者 金子俊彦



土竜(もぐら)の囁き

今から七〇年前、柳川の旧藩校の名残りの伝習館に入学した土竜は、毎週土曜日に城内(しろうち)一周の駆け足を経験した。柴垣・茅葺・堀の水の青さなど少年ながらその風致に感動した。戦後になって、古きを捨て新しきに就くとの風調が高まり武家屋敷等も次々姿を消し趣きがなくなつた。惜しかつたのは福岡銀行柳川支店の解体で「かどどめ」を刺された感じがした。

ところで、今秋の本会の史跡訪問は山口県の萩市に決まつた。観光都市としての萩は有名であるが、それだけ城下としての風致が残っている故であろう。柳川とは異なり武家屋敷は土塀で囲われ、碁盤の目のように配置されている。

殿の墓所も奇数の殿は東光寺、偶数の殿は大照院にある。墓は殿と奥方のそれが並んで建てられている。柳川では考えられない。史跡以外にも「殿は君臨すれども統治せず」の表現通り政治向きのこととは家臣任せの民主的であつた。萩訪問では観光面の視察とともに長州藩の歴史を学ぶべきであろう。

柳川では過去の反省から残された数少ない史跡の渡辺邸の保存に市民一同が立ち上がるべきである。